

安全への提言



安全・安心の分かりやすさ

かね 金子 功†

「安心してください！穿いてますよ。」

昨年、テレビのお笑い番組で流行したフレーズである。学会誌の巻頭にふさわしいとは言い難い話題で恐縮だが、実はリスクコミュニケーションの本質が内包されている。

「安全（穿いている）→信頼（開示する）→安心」という過程を簡単な言葉としぐさで訴求し共感を得て、また、表現に倒置法を用いることで視聴者の注目を集めている。

この例と同様に、実業の世界でも新たな施策を展開するときには、相手の立場に立ち、いかに分かりやすく興味を持って聞いてもらうかが非常に重要である。

完成度が高く有用な理論や手法でも、相手が納得すること、それ以前に興味を持って話を聞いてもらうことが、活用の前提となる。導入のメリットを訴求し、聞き手のレベルに応じた簡潔な説明で共感を得る（最近「腹に落ちる」という表現が流行っている）ことなしには、普及は望めない。

実は、都市ガス業界でも実例がある。3年を費やして「ガス保安リスクマネジメント調査」を行い、立派な報告書も仕上がったが、当初はこれを受けてリスクマネジメント手法を導入した事業者は限定的だった。

都市ガス業界には全国に大小203の事業者があり、事業規模では従業員数で千倍近い開きがある。その上、事業を展開する地域や、家庭用と産業用の顧客割合など事業環境は様々である。

上述の報告書は内容が難解な上に、導入のメリットが見えにくかったため、技術的視点でも経営的視点でも「腹に落ちなかった」と思われる。その後の平易なガイドブックの作成とこまめな説明会の開催により、この1～2年、やっと業界内に定着する兆しが見えてきた。

高度な内容を難しいまま伝えるのではなく、平易な言葉で表現できるのが一流の専門家である。ちなみに、普通のことを易しく伝えるだけでは専門家とはいえないし、あえて難解に表現するのは虚勢である。

話は変わるが、過日、経済産業省の産業構造審議会保安分科会が「産業保安のスマート化」を主要テーマとして開催された。設備の老朽化、人材の高齢化が進む中で、いかに保安水準の維持向上を図るかが我が国の課題とされた。

示された方向性は、産業界によるIoT、ビッグデータ、AI等を活用した課題解決のアプローチを行政が後押しする仕組みを作るという「スマート保安」への取り組みである。これにより国内産業における安全・安心の確保と、プラントやインフラの輸出を含む企業の国際競争力の強化を目指す。

事務局が提示した資料には、「第三者評価機関の積極的活用」の例示として保安力向上センターの名前も挙げられていることから、安全工学会もその一翼を担うことが期待されているものと考えられる。

天下国家の視点で安全・安心を論じる「官」、より高度で有益な研究や理論構築を迫及する「学」と、これらを広く実業に展開する「産」が「スマート保安」を軸として噛み合えば、我が国のみならず世界の産業保安に多大な貢献ができるとの期待がある。

官・学・産ではその立場上、安全に関する価値観、評価軸やメンタリティには微妙な違いがある。それぞれが独善に陥ることを戒めつつ、他者に敬意と関心を払うことで、はじめて達成可能な挑戦でもある。

審議会に参加した委員からは、女性活躍推進に優れた上場企業を選定する「なでしこ銘柄」のように、消費者や投資家にとって産業保安に積極的な事業者だと分かりやすいマークや指標が必要、人材確保の視点では産業保安という地道な分野をIoTやビッグデータという切り口で学生にアピールできる、といった意見が出された。ここでもポイントは「分かりやすさ」であり、「興味、関心」である。

それぞれの分野で活躍する安全の専門家が、その専門性を追求しつつ、世の中に「分かりやすさ」と「興味、関心」を提供し続けることが、安全と安心の不断の進化に繋がるものと考えられる。

†（一社）日本ガス協会 技術部：〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-15-12